

熊本大学教育学部情報教育研究会 7月例会スペシャル

これからの教育を考える

定員40名

教育界には、そのときの「流行」といったものがあります。今は「タブレット端末」や「学び合い」といったところでしょう。その一方で、「それらは道具や方法にしかすぎない。目的こそが大事だ」といった批判もあります。

では、その「目的」とは何でしょう。これからの教育には何が必要なのでしょう。授業は、新しい時代に応じて変わらなくてもいいのでしょうか。

今回の講座では、二人の特別講師をお招きして「これからの教育」について考えていきます。授業をされる先生方ばかりではなく、教員研修担当や管理職の先生方にとっても役立つ内容になります。定員になり次第、受付を締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日付：2014年7月27日（日）

場所：熊本大学くすの木会館（附属小ではありません。）

時間：午前9時30分～午後5時

主催：熊本大学教育学部情報教育研究会

D-project（デジタル表現研究会）九州

会費：1000円

昼食：各自ご準備ください。近くにコンビニがあります。

参加申込み：メールで山口修一副会長まで。

定員に達したら締め切ります。

yamashu2jp@yahoo.co.jp

午前の部



「よい『学び』をつくる」 ～学びの個別化・協同化・プロジェクト化～ 特別講師 苦野一徳 先生

苦野一徳（とまの いっつく）

熊本大学教育学部講師。博士（教育学）哲学・教育学。多様で異質な人たちが、どうすれば互いに了解し承認しあうことができるか、探究している。NHK「ニッポンのジレンマ」の「教育」の回に出演し、「よい」教育とは何かを論じるなど、若手の教育哲学者として注目されている。

主な著書：『教育の力』（講談社現代新書）『どのような教育が「よい」教育か』（講談社選書メチエ）『勉強するのは何のため？一僕らの「答え」のつくり方』（日本評論社）、共著書に、『知識ゼロからの哲学入門』（幻冬舎）、『図解哲学がわかる本』（学研パブリッシング）など。

午後の部



「協同学習の技法と教師教育」 ～協同学習ワークショップ+教育方法と省察指導～ 特別講師 上條晴夫 先生

上條晴夫（かみじょう はるお）

東北福祉大学教授。「教師教育ネットワーク」代表。小学校教諭、児童ノンフィクション作家を経て、ポピュラー・ライターとなる。専門は教育方法学・教師教育学。活動歴は、「授業づくりネットワーク」編集長、日本テレビ・ニュースアドバイザー委員、台湾・文藻外語学院での日本語教育指導法講座講師、沖縄サミットのイベント「アイランド・クエスト」実行委員、全国教室ディベート連盟の教育・普及委員長、産業能率大学産能マネジメントスクール文章講座講師、ベネッセコーポレーション作文教材の開発・監修などがある。

主な著書：『見たこと作文でふしぎ発見』（学事出版）、『実践・子どもウォッチング』（民衆社）、『さんま大先生に学ぶ 子どもは笑わせるに限る』（フジテレビ出版）、『ワークショップ型授業で国語が変わる』（図書文化）、『叱る技術』（学陽書房）、『実践・教師のためのパフォーマンス術』（金子書房）など多数。